

令和2年度「事業評価・提案会」

都留市行政改革推進委員会からの答申を踏まえた改善策・
今後の方向性について

都企発第24号
令和2年10月6日

都留市行政改革推進委員会 会長 様

都留市長 堀内 富久



都留市行政改革推進委員会設置条例第2条の規定に基づき、下記の事項について
諮問します。

記

<諮問事項>

令和2年度「事業評価・提案会」に係る評価対象事業について

<諮問理由>

本市では、都留市自治基本条例第19条に基づく外部評価という位置づけとして、「事業評価・提案会」を毎年度行っております。

本年度のテーマは、各担当が取り組んでいる事業の中で課題を抱えており、外部からの意見・評価を必要としている事業の中から政策提言を受けることとしています。

そのため、行政外部の視点から評価や提言を伺うことにより、評価の客観性・公平性・信頼性を高め、事業を効率的かつ合理的に実施できるように改善し、今後の事業推進の参考とするため、令和2年10月14日開催の令和2年度「事業評価・提案会」の評価対象事業に対し、諮問し、意見を求めるものです。

○評価対象事業

- ▶ 市有財産の有効活用事業
- ▶ まちづくり推進事業
- ▶ 高齢者の見守り支援事業
- ▶ ペットボトル飲料水の製造、販売事業
- ▶ 体育スポーツ奨励（つる湧水の里ハーフマラソン）事業

担 当
課長 補佐
課 長
部 長
副市長
市 長
回 覧
2月27日
年月日

令和2年10月27日

都留市長 堀内 富久 殿

都留市行政改革推進委員会
会長 鈴木 健大

令和2年10月6日付け、都企発第24号にて諮問のあった件について、都留市行政改革推進委員会設置条例第2条の規定に基づき、下記のとおり答申します。

記

<答申事項>

令和2年度「事業評価・提案会」に係る評価対象事業について

<答申内容>

令和2年度「事業評価・提案会」の評価対象事業について、別紙のとおり意見等を取りまとめました。

第6次都留市長期総合計画の目指すべき将来像である、「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」の実現に向け、本意見を踏まえつつ、都留市職員一丸となって事業を推進されたい。



令和2年度「事業評価・提案会」評価・提案内容

事業名 ① 市有財産の有効活用事業

担当部署 総務部 財務課 管財担当

市の取組への評価・課題	具体的な対応策・提案
<p>【評価○】 ・有効活用に向け、管理している筆ごとに土地や周囲の状況等を把握している点は評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市が活用は難しいと考えている土地も人によっては不便と感せず、魅力と感じる方もいるはずである。 ・不動産企業や地方金融機関等の外部専門家との連携、またPPP、PFI等の手法についても活用を検討すべき。 ・土地の活用方法として農家と連携したシェア畑はいかがか。手入れ等が必要なことから定期的に外部からも人が訪れることが予想される。 ・インスタグラム等のSNS、CATVを活用して広く周知を図ってはどうか。 ・その土地だけの広報ではなく、周辺環境も合わせての周囲の環境に加えてYoutube等を利用し、スーパー等の位置関係が分かるようなPRはいかがか。
<p>【評価△】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HPにて土地情報を掲載しているとのことだが、中々たどり着けない。より分かりやすいHPを作成し、その中で企業向け、個人向け等にページを分けるなどの工夫が必要ではないか。 ・現在団地等に住んでいる若者世代に向けて、市有財産のお知らせチラシの配布をするのはいかがか。 ・移住者の疑似体験施設をつくるのはどうか。 ・深谷市で実施されたマイナス入札の仕組みを検討することはどうか。(廃校となった学校の解体にかかる費用の解体条件つき入札の仕組み。) ・売却なのか賃貸なのか土地ごとの方向性の整理が必要ではないか。
<p>【課題】 ・HPで周知はしているようだが、広報活動が足りていない。 ・民間企業等と連携した取組が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土地のスペックだけでなく周辺環境等についても掲載することを検討すべきではないか。 ・インスタグラム等のSNSツールの活用、選択が必要である。 ・民間企業、連携といったキーワードで活用のプログラムを検討すべきではないか。

令和2年度「事業評価・提案会」評価・提案内容

事業名 ② まちづくり推進事業

担当部署 市民部 地域環境課 地域振興担当

市の取組への評価・課題

具体的な対応策・提案

【評価○】
 ・加入マニュアルの作成やアンケート調査を実施している点は評価できる。

- ・地域コミュニティを自治会という観点からだけでなく、田原周辺であれば大学生を巻き込んだ取組等により広域的に捉え、考えていく必要があるのでは。
- ・繋がりという点から文大の留学生等、日本で暮らす外国人ともつながりをつくる機会を普段からつくってはどうか。
- ・移住者に対するサポート環境を整備することで自治会活動に関心が湧き、加入率の向上にもつながるのではないか。
- ・自治会活動の中で数年に1度まわってくる組長や会計などの役職は負担であり、断ることも難しい状況である。断っても良い仕組みづくりや役職を引き受けた方へ報酬をだすといったことも考えるべきではないか。
- ・イベント(クリスマス会や餅つき大会等)を定期的で開催し、加入したくなる組織作りを目指してはどうか。

【評価△】
 ・自治会へ加入したくなる、協力したくなる仕組みづくりが必要ではないか。

- ・加入を躊躇する原因の1つとして、何をやっているのか分からない部分があるので、自治会の年間活動スケジュール等を提示し、より明確化することが必要だと感じる。
- ・これまで自治会が担ってきた機能を整理し、10年先にどのように代替していくのか検討するワーキンググループ(市役所、民間含めて)で議論することはどうか。
- ・“自治会”という枠組みに捕らわれず、移住者や外国人、大学生等を巻き込むなど、地域コミュニティとして地域を一体として考えていくことが必要ではないか。
- ・自治会活動は強制的、役職をやらない方は後ろ指を指されるなど、ネガティブイメージが付きまとうため、役職を断ってもよい仕組み作りや役職者へのインセンティブ等の付与についても検討をしたらどうか。

【課題】
 ・加入することによる負担(デメリット)ばかりで、メリットをより分かりやすく発信していく工夫が必要ではないか。

- ・若者や新規の加入者を増やすためのイベント等開催を検討したらどうか。
- ・自治会加入検討者へ年間スケジュールを提示する等の自治会活動の明確化が必要ではないか。
- ・市より依頼されて活動する、自分達はやらされているという感想を大半が持っており、本来は行政がやるべき活動を自治会へ下していないか点検すべきである。
- ・今後の自治会の在り方を問うようなディスカッションの場が必要ではないか。

令和2年度「事業評価・提案会」評価・提案内容

事業名	③ 高齢者の見守り支援事業
-----	---------------

担当部署	福祉保健部 長寿介護課 高齢者支援室
------	--------------------

市の取組への評価・課題	具体的な対応策・提案
<p>【評価○】 ・ボタン一つで相談センターに繋がる仕組みは手軽で利用者にとっても使いやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・犬を飼っている人は毎日散歩で近所を回るので、併せて近隣の見回りも手伝ってもらう仕組み(仮称 見回りドッグ制度)はどうか。(認定された犬には予防接種の費用を助成するなどの補助を行う等のインセンティブを付与) ・防犯ブザーのように緊急時には音となる小型機器を導入し、携帯させてはいかがか。 ・責任のある立場とするためにも現在の無償形式ではなく、協力員を有償にて任命することはいかがか。 ・全国ではふるさと納税制度を活用した有料取組事例があることから、ぜひ本市でも取り入れることができないか。 ・すでにいーばしょ等で実践はしているが、外に出て誰かとつながるための交流の場となるコミュニティや居場所作りの重要性を再度念頭に事業を検討していただきたい。
<p>【評価△】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に限った話ではなく、障がい者や子育て世代、ひきこもりの方など多世代間にわたった幅広いネットワークの構築が求められる。また、民間企業や郵便局とも連携した取組を検討することも重要である。 ・地域全体で支え、見守ることが必要であり、緊急時には音などで周囲へ知らせる仕組みづくり等が必要。 ・地域を回っている人(犬の散歩、宅配や郵便局等)を活用してはいかがか。 ・民間企業とも連携し、また多世代間(障がい者、引きこもり、母子家庭等)における組織だったネットワークの構築や形成が必要。 ・協力員の方について有償サービスとしてはいかがか。
<p>【課題】 ・対象者が限られるため仕方ないことではあるが、普及率が低いと感じる。 ・協力員とは言え、鍵を預ける現行の制度はリスクが高いのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問だけでなく集まれるカフェ等の居場所作りが必要。

令和2年度「事業評価・提案会」評価・提案内容

事業名 ④ ペットボトル飲料水の製造、販売事業

担当部署 産業建設部 上下水道課 水道管理担当

市の取組への評価・課題

具体的な対応策・提案

【評価○】
 ・実際に飲んでみて、とても美味しかった。

- ・水のPR大使を任命しイベントを開催するなど、より広く周知活動をおこなってはどうか。
- ・様々なサイズ展開やフレーバーウォーター、炭酸水といった商品展開ができれば知名度増、利益増にも繋がるのではないかと。
- ・ウォーターサーバーの無料レンタルや富士山型ボトルの販売などの新たな取組を始めてはどうか。
- ・ふるさと納税事業者との連携した返礼品のブランディング(カフェとの提携による湧水コーヒー等)ができないか。
- ・市内、市外企業向けにオリジナルペットボトルデザインを販売してはいかがか。企業の従業員や来客に対して都留市の水を知ってもらうPRにもなり、価格が安価であれば企業は備蓄用としても購入を検討するのではないかと。

【評価△】
 ・富士山の湧水、軟水以外に特徴は無いかと。

- ・都留湧水ブランドの確立を目指すことはどうか。化粧品等の水を原料とした商品への湧水を活用し、対象となった商品には認定マーク等を付与するなどしてブランディングを図る。
- ・宿泊施設と提携し、ペットボトルを客室に置いておくことで宿泊者へのPR効果を狙えないかと。
- ・ウォーターサーバーとしての売出しや富士山型ボトルの販売
- ・ふるさと納税事業者とのコラボ
- ・企業とのタイアップによるコラボレーションボトルの開発
- ・つる湧水認定マークを作成し、スキンケア用品等への活用

【課題】
 ・コンセプトやデザイン等について再考の余地があると感じる。
 ・バナジウムの効能が分かりにくい。

- ・ふるさと納税寄付者リピーター確保のためのPR
- ・市内旅館やホテルとの提携により、宿泊施設の各客室へのペットボトルの配置や首都圏都留市会等へのPR
- ・SNS等で宣伝し、販売ページへのリンクが飛ぶような仕組み
- ・200mlサイズやフレーバー水等の種類や容量の展開

令和2年度「事業評価・提案会」評価・提案内容

事業名 ⑤ 体育スポーツ奨励事業

担当部署 教育委員会 生涯学習課 スポーツ振興担当

市の取組への評価・課題	具体的な対応策・提案
<p>【評価○】 ・集客力のある、地域活性化の取組みとして有効である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の目的ごとにテーマを設定する必要があるのではないか。タイム等を意識している方々にはリピートしてもらうための工夫。ビギナー層には楽しみながら走ってもらうイベント性を持ったコース、テーマの設定。 ・学生層の参加増を狙い、学生割引の導入。学生時代から親しむことで卒業後のリピートも期待が出来るのでは。 ・都留でしか味わえないコースの魅力アピールとして、リニアに加えて富士山の見える景観や湧水、歴史文化をPRできれば面白いのではないか。 ・友好都市や姉妹都市、近隣自治体との連携による共同開催についても視野に入れてはいかがか。 ・市内小中学生による沿道での応援も参加者増につながるのではないか。
<p>【評価△】 ・目的やテーマ設定が不明確である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現存のファミリーコースだけでなく、カップルコースなど新たなコース設定の導入。 ・参加者へ地域食材を振る舞い、その後に購入の流れづくり ・目的設定の見直し、明確化が必要である。(市民の健康増進なのか地域活性化なのか) ・参加者への市内PRのための都留知るマップ等の作成 ・リピーター確保のための継続参加者への割引
<p>【課題】 ・都留市独自のマラソン大会であることの特徴づけがリニアだけでは弱いと感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・走りながら地場産品の試食等を提供できる仕組みづくり(湧水BBQマラソン等) ・都留市のマラソン大会として定着させるための特徴づけ ・カラーランや婚活ラン、マラニック(マラソン+ピクニック)、クイズの導入等による競技性ではなく話題性のある大会の開催

都留市行政改革推進委員会からの答申（令和2年度「事業評価・提案会」
に係る対象事業について）を踏まえた改善・今後の方向性

事業名	市有財産の有効活用事業		
課名	財務課	担当名	管財担当
<p>改善策・ 今後の方向性</p>	<p>今までは対象となるターゲットを絞らず、現場の状況から土砂災害等の危険性や市街地から距離などある程度、問題なく活用できるような土地のみを担当で判断してホームページへ掲載をしていた。</p> <p>しかし、今後の方向性としては、対象となるターゲット毎に見つけやすいよう分け、今まで省いていた場所の掲載をするとともに、掲載情報を今までより多くしてイメージが掴みやすいように掲載する。</p>		
<p>具体的内容</p>	<p>具体的にはまず、ホームページで検索したときに「購入希望者向け」と「購入希望企業向け」に分け、対象ターゲット毎に分かりやすくする。</p> <p>次に、今まで省いていた場所の掲載について、該当場所や周辺の状況の情報量（面積、市役所からの距離、近くの買い物場所、近くの名所など）を多く記載するとともに、写真や対応できるようであれば動画を一緒に掲載する。</p>		

都留市行政改革推進委員会からの答申（令和2年度「事業評価・提案会」
に係る対象事業について）を踏まえた改善・今後の方向性

事業名	まちづくり推進事業		
課名	地域環境課	担当名	地域振興担当
<p>改善策・ 今後の方向性</p>	<p>提案会の際に出された意見の多くは自治会の実活動に該当することが多く、支援的な側面のウエイトが大きい行政の立場としては、手段や情報の提供及び行政が自治会（地域）へ依頼している業務や役職の精査を行う必要がある。</p>		
<p>具体的内容</p>	<p>・「自治会が何をやっているのかわからないのではないか。」という意見を踏まえ各自治会へ年間活動の「見える化」を提案し、実践していく。 ⇒各自治会ごとの年間活動計画表の作成 ※自治会の総会の際に作成している年間計画をもとに同一のフォーマットで作成してもらう。 作成していただいた活動表についてイベント等が自治会加入者だけの参加なのか、それ以外の者の参加も可能かを記載してもらい、学生・移住者・未加入者に対し情報提供していく。（HP等）</p> <p>・自治会連合会長への充て職の精査 自治会会長が感じている負担に市や関係機関から委員への依頼が多いことが度々指摘されている。 自治会会長が以前に比べ、年齢層が下がり、雇用体系が変化する中（退職年齢の上昇）、充て職を依頼される会議（昼間が多い。）に出席できないことが多い。 担当においては、自治会連合会長へ依頼される委員の各理事への振り分け、会議のスケジュールを見える化した上で依頼してきたが、地域の代表として自治会長を選出する方法が立ち行かなくなっていると感じている。 ⇒自治会長に依頼するのではなく、委員の任期に合わせた地域の代表を各担当が人選する方法への転換の必要性。 会議の開催時間についても、負担軽減を図るため、可能な限り各種会議の夜間開催を検討する。</p>		

都留市行政改革推進委員会からの答申（令和2年度「事業評価・提案会」
に係る対象事業について）を踏まえた改善・今後の方向性

事業名	高齢者の見守り支援事業		
課名	長寿介護課	担当名	高齢者支援室
<p>改善策・ 今後の方向性</p>	<p>現状のサービスについては、利用者の実態や要望などの把握に努めるとともに、民間企業が提供している各種サービスの内容や導入時期を検討して、さらなる利便性の向上を図っていく。</p> <p>各民間企業と締結している見守り協定の拡充を図り、また多種多様な見守りネットワークの構築に向けて、地域の各種団体や関係機関、庁内の関係各課と連携していき、様々な角度から見守りすることができるよう取り組んでいく。また、お互いがそれぞれ尊重し、支え合うことができる地域共生社会の実現に向け、誰もが通える場としての「いーばしょ」をさらに推進していく。</p>		
<p>具体的内容</p>	<p>1.現状のサービスについて</p> <p>①ふれあいペンダント利用者に対して、機器の活用状況や必要としている機能などの調査を実施する。</p> <p>②音がなる小型機器やカメラを搭載した機器など、ハード面において利便性の向上が見込める民間企業サービスの導入を検討する。</p> <p>2.地域における見守りネットワークの構築について</p> <p>①見守り協定を締結している民間企業をはじめ市民に対し、見守りの要点について周知啓蒙を行い、質の向上を図る。</p> <p>②認知症の人を含む高齢者を見守り、支える認知症サポーターや事業所とのつながりを支援し、見守り体制の構築を行う。</p> <p>③犬の散歩やウォーキングを日常的に行っている市民に向けた「認知症サポーター養成講座」のチラシを作成し、動物病院や健康ジムなどの関係機関に設置することで参加者を増やす。また、地域環境課と連携し、犬を登録している市民に対してチラシを配布する。</p> <p>④庁内の関係各課と連携し、特に地域コミュニティセンターの役割による高齢者の見守りや協働のまちづくり事業の推進に向けた地域貢献活動を通して、日頃からの地域住民間の見守り意識の向上を測る。</p> <p>3.「いーばしょ」づくり事業の推進について</p> <p>①新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、「いーばしょ」の周知や新規開設の支援を行う。</p> <p>②高齢者実態把握事業において、見守りが必要な人を「いーばしょ」などの通いの場につなげられる支援体制を強化する。</p>		

都留市行政改革推進委員会からの答申（令和2年度「事業評価・提案会」
に係る対象事業について）を踏まえた改善・今後の方向性

事業名	ペットボトル飲料水の製造、販売事業		
課名	上下水道課	担当名	水道管理担当
<p>改善策・ 今後の方向性</p>	<p>○改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品のコンセプトやデザイン等の再考 ・更なるPRの追加 ・多彩な商品展開 <p>○今後の方向性</p> <p>ペットボトル作成については、外部に製造依頼しており、現在の製造元では発注ロットが倍増しても製造コストは下がらない。</p> <p>一方、小売価格を市販並みに抑えているので、送料を含めるとコストが高額となる。</p> <p>PRを全国展開する場合、寄付額から送料が賄われるふるさと納税返礼品を中心とした販売展開にしていく（水道事業からの直販、通販はできない。）。</p> <p>これらの状況を踏まえて、あまりコストがかからないPRや商品展開を検討し、低コストで製造が行える製造者の選定も併せて行う。</p>		
<p>具体的内容</p>	<p>○商品のコンセプトやデザイン等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おいしい水」 ・「富士山湧水のブランド」 ・「バナジウム等の成分を含む」 <p>⇒上記三点のプラス要因をPRするため、ラベル等の変更を検討する。</p> <p>○更なるPRの追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内宿泊施設にペットボトルを客室へ設置するよう依頼する。 ・ふるさと納税返礼品にお礼状を添え「都留市」とともにPRする。 ・市などで主催する会議への商品提供を関係各課に呼びかける。 ・市内販売所については、目立つようにのぼり旗やポップ等で商品PRを行う。 <p>○多彩な商品展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の容量サイズ、特殊容器等の製造検討を行う。 ・市内外他事業種とのコラボ商品の検討を行う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の製造会社と比較を行い製造コストの削減を検討する。 <p>○安全で安定的な採水体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採水時の安全確保 ・ふるさと納税返礼品としての受注増加への対応 <p>⇒今後の更なる受注増に対応するため、より安全で安定的な採水地への変更を検討する。</p>		

都留市行政改革推進委員会からの答申（令和2年度「事業評価・提案会」
に係る対象事業について）を踏まえた改善・今後の方向性

事業名	体育スポーツ奨励事業		
課名	生涯学習課	担当名	スポーツ振興担当
<p>改善策・ 今後の方向性</p>	<p>① 市民等がワクワクするような話題性・持続性を持った特色ある大会を目指し、都留市のふるさと時代祭りと並ぶ一大イベントとして定着させる。</p> <p>② 県内外の多くのランナーに参加をいただき、大会の目的の一つである「地域活性化・経済効果」を一層推進していくため、大会の認知度を高める取組を積極的に進めていく。</p> <p>③ 「自治会」、「市内小中学校・高校・大学」、「各種団体」等と連携し、多くの方々の参加・協力により、一丸となって大会を盛り上げていくような「市民参加型のハーフマラソン大会」を目指す。</p>		
<p>具体的内容</p>	<p>①特色・話題性をもった大会とするための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都留市の特色である豊かな自然を満喫でき、リニアに加え、富士山の見える景観、平成の名水百選「湧水の里」の名所等を盛り込んだ「魅力あるコース設定」を進めていく。 ●マラソンの競技性だけでなく、話題性のある取り組みを加え、本市の急こう配のコース設定の特色を踏まえた「激坂スプリット」、沿道の応援者も楽しめる「仮装ランナー」、コース上に地元名産が試食できる「エイドコーナー」等のユニークな企画を盛り込んでいく。 ●多くの方に参加をしてもらうための工夫として、これまでの部門（種目）に加え、カップルコースなど、新たな種目の導入を進めていく。 ●リピーター確保のため、「（仮称）連続参加者特別賞」を創設する。 <p>②認知度を高める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マラソンコースや都留市の紹介等を踏まえた「大会PR動画」を作成し、県内外のランナーに多様な方法により情報発信をしていく。 <p>③市民参加型の各種団体との連携した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元住民の「おもてなし」によりランナーを応援するため、自治会・学生・各種団体等と連携し、多様な応援方法による「沿道応援プロジェクト」を企画する。 ●これまで以上に参加者（ランナー・ランナー家族等）に楽しんでもらうため、市内飲食店組合等と連携し、大会当日に「道の駅つる」において、地域食材のふるまい・屋台・フリーマーケット等を実施する。 ●都留市への移住者と連携し、大会当日に、市外ランナーの参加者に対して、移住者自らがPR活動を行う「移住PRブース」等を設置する。 		